



# 学校だより

令和4年4月28日(木)

5月号 No.2

横浜市立大豆戸小学校

TEL543-7911

自己有用感、自己肯定感を高めるために・・・

副校長 萩原 英里

風が春から初夏の香りを運んでくるのを感じる季節となりました。先日は、授業参観、懇談会にたくさんの保護者の方にご参加いただき、ありがとうございました。新しい環境の中で頑張っている児童の姿を見ていただけたことと思います。

1年生が入学して、三週間がたちました。1年生に対して、上級生たちが優しく声かけをしている姿が多くみられます。集団登校の時に、上級生が下級生の安全に気を付けながら登校をする。教室がわからなくなってしまった1年生に「1年生はこっちだよ。」と2年生が優しくエスコートする。そして、6年生が、1年生の教室に行って困っている児童の



手伝いをする…。一見、1年生のために行っていることですが、実は上級生にとっても、自己有用感が高まる大切な活動になります。ただやっているだけでは自己有用感が高まりませんが、そこで「ありがとう」「助かるよ」と他者から評価されることで、自分が人の役に立っていると思う気持ちが自己有用感を高めます。大豆戸小学校で行っている「なかよし活動」(たてわり活動)も、自己有用感を高める大切な活動になります。自己有用感が高まると自分の存在価値が高まり、自分を大切に思い相手にも感謝できるようになります。

自己肯定感とは読んで字のごとく、ありのままの自分を肯定する感覚です。いつも注意されてばかり、叱られてばかりだと「どうせ、自分なんて、ダメなんだ」と自己肯定感が低くなります。自己肯定感が高ければ、他人からの賞賛を素直に受け止めることができ、失敗しても「次は頑張ろう!」と前向きにチャレンジできるようになります。

自己肯定感を高めるためには、周りの大人が子どもをありのまま受け入れて、肯定的に受け止め、そして「あなたなら大丈夫。」「きっとできる」と励まし、認めてあげることが大事です。

まわりの大人の関わりが大きな鍵を握る大切なこの時期、子どもの自己有用感、自己肯定感の高まる声かけを、学校でも積極的に行っています。家庭でも心掛けてみてください。